

飯田市立動物園 新たな飼育の取組について

1. はじめに

ニホンライチョウは国の特別天然記念物に指定されており、長野県鳥でもある。ニホンライチョウは北アルプス、中央アルプス、南アルプスに生息していたが、1960 年代後半には中央アルプスから姿を消し、現在、南アルプスには 2000 羽以下と推定され、絶滅が懸念されている。

原因は、キツネ、テン、チョウゲンボウなどの捕食動物の増加や、高山帯に侵入してくるニホンジカやサルなどが、高山植物を食い荒らす植生破壊も影響していると考えられている。

平成 20 年には、上野動物園でスバルライチョウの飼育を開始して以来、現在は富山市ファミリーパーク、いしかわ動物園など全国 8 園の動物園で、飼育繁殖に取り組んでいる。

平成 26 年に日本動物園水族館協会（JAZA）は、環境省と協定を結び、絶滅危惧種の生息域外保全を協力して行うこととなった。また、平成 27 年 7 月には上野動物園と富山ファミリーパークにおいてニホンライチョウ 10 羽の孵化に成功している。現在、富山ファミリーパークの雄の 3 羽が生存している。

※スバルライチョウは近縁種でノルウェーなどに生息するライチョウ

2. 取り組む理由

当園が取り組む理由は以下のとおりである。

- ① 南アルプスはライチョウの生息地として、日本の南限、また世界の南限ともなっている。したがって、北信より温暖な当園がライチョウ保護、飼育に取り組むことは、学術的にも大変有意義である。ここでの研究成果が、南アルプスの生息数の減少の歯止めになるよう貢献したい。
- ② 当園においては、南アルプスに生息する動物たちの展示に力を入れており、特別天然記念物のカモシカなどを展示している。地元でも見る機会の少ないライチョウの展示は、展示内容の充実や、入園者数の増加により、中心市街地の活性化にも繋がることを期待できる。
- ③ 平成 26 年 6 月、南アルプスがユネスコエコパークとして登録され、豊かな自然を保全して行く活動が始まった。ライチョウを飼育することは、希少動物の生態系の学習の場に資することとなり、子供達への環境教育の更なる充実につながる。

3. 今後の予定

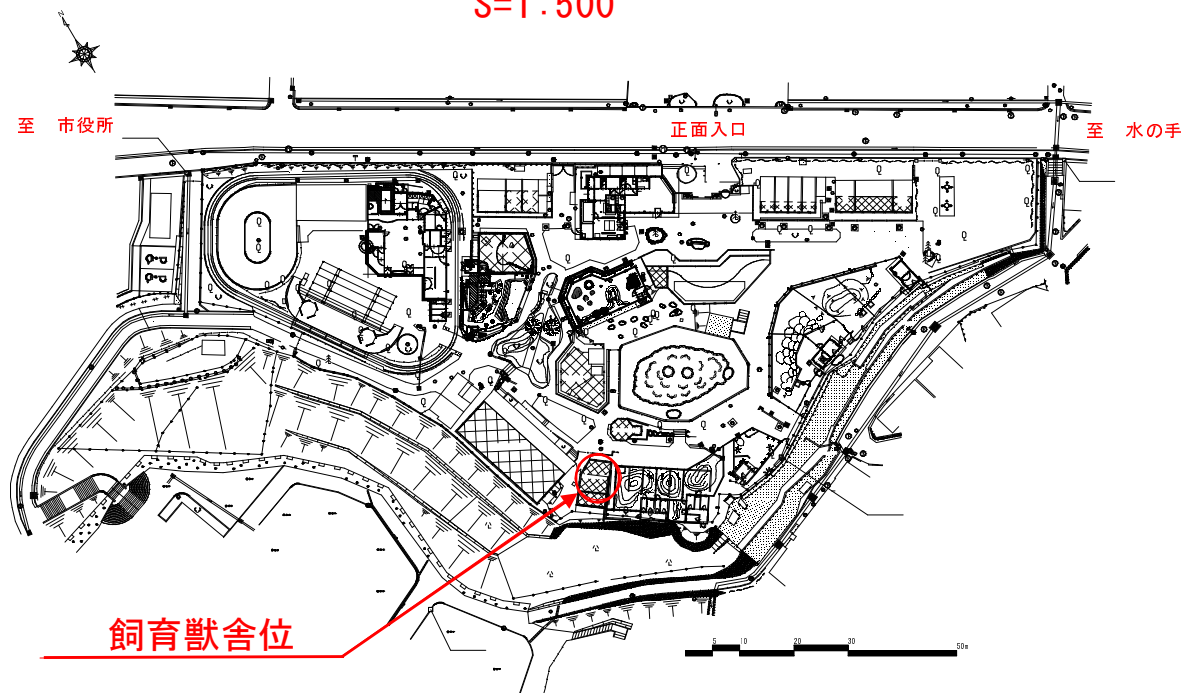
平成 28 年 1 月中旬（いしかわ動物園と調整中） スバルライチョウ雌雄各 1 羽の導入を行い、飼育及び生態の基礎的な調査研究に取り組む。

平成 28 年 2 月上旬 一般公開予定（調整中）
（新しい環境に慣れるために、公開まで時間がかかります。）

～平成 32 年 3 月 指定管理の終了する期間まで取り組みを行い、継続するか否かは次の指定管理者と協議し、決定する。

扇町公園（動物園）平面図

S=1:500



飼育獣舎